

## Ⅷ 県民による森づくり提案事業

### ○趣 旨

県民参加の森づくりを進めるため、県民の皆さんが企画し、実践する森づくり事業への支援を行ないます。

また、水と緑の森づくり税を活用した事業のアイデアを募集し、水と緑の森づくり事業への反映を検討します。

### ○平成21年度事業の実績

#### (1) 県民実践活動事業

県内で活動する団体・グループから事業提案を募集し、第1回富山県水と緑の森づくり会議（平成21年4月22日開催）で審査のうえ、支援を行ないました。

【平成21年度実績】

・実施件数 25件

参加延べ人数

5,055人



整理伐採した木材を利用して家具などの木製品を製作し、県民に県産材利用を呼びかけるイベントが開催されました。

（県民で使おう、とやまの木実行委員会）



県内初のツリークライミング体験会が開催され、参加者は体験したことのない目線で森とのふれあいを楽しみました。

（NPO森林総合支援センター）

#### (2) 県民からのアイデア提案

県民から事業アイデアを募集し、第2回富山県水と緑の森づくり会議（平成21年12月4日開催）で審査のうえ、事業への反映を検討しました。

【平成21年度実績】

・応募件数 13件

うち2件につき一部採用

（森の寺子屋のメニュー拡充、広報活動の強化）

## H21 県民による森づくり提案事業「県民実践活動事業」実施主体別実施概要

No.	実施団体名	実施場所	参加延べ人数
	実施内容	活動状況写真	
1	NPO黒河竹炭友の会	射水市黒河新 地内	85名
	<p>①放置竹林約600m<sup>2</sup>の整備 ②竹炭の製造(約30kgの収穫)</p> <p>放置竹林約600m<sup>2</sup>に約900本の竹が密生していた。700本を伐採し、うち100本を竹炭製造に利用。約30kgの竹炭を得た。残りの600本はチップパー機により粉砕した。整備前は人が入り込むことすらできなかったが、美しい竹林に生まれ変わった。</p>		
竹林の伐採		焼き上がった竹炭	
2	NPO南砺の山々を守る実行委員会	南砺市小院瀬見外 地内	546名
	<p>①H20豪雨災害による被害木の伐採・整理 ②伐採跡地での植樹イベント・炭焼きイベントの開催</p> <p>H20年度の豪雨災では、カシナガ、松くい被害木が流出した。流木の再発防止のため、里山のカシナガ等の被害木、豪雨による倒木などの伐採・整理を行い、跡地に植樹した。また、伐採木は炭焼きを行った。参加者には、講演会と併せて森づくりの大切さを啓発できた。</p>		
豪雨災被害木の伐採		植樹イベント	
3	雄神地区森林振興会	砺波市庄川町庄外 地内	186名
	<p>①広葉樹林の整備と伐採木を使ったキノコの植菌 ②地域住民による炭焼き体験の開催 ③森づくり講演会の開催</p> <p>当地域の背後に広がる広葉樹林の整備とその活用、講演会の開催を通じて、地域の里山を見直すきっかけとなった。来年度は収穫されるキノコ料理教室なども開催し、広く地域住民に森の恵みを感じる機会を作りたい。</p>		
広葉樹林の整備		炭焼き体験会	
4	阿古屋野森づくりクラブ	黒部市阿古屋野 地内	244名
	<p>①市内小学生に対するコナラ植栽、カシナガ被害木のキノコ植菌体験等の指導 ②ドラム缶炭窯を製作・設置、竹炭焼体験会の開催 ③植物観察会、樹木名札付け、バードウォッチング開催</p> <p>年間を通して多様な活動を行い、黒部市ふれあい交流館「あこや一の」の来館者、地元小学生、地域住民らに森づくりの大切さ、環境保全の必要性を体感してもらうことができた。</p>		
コナラ植栽体験		ドラム缶炭窯見学	

## H21 県民による森づくり提案事業「県民実践活動事業」実施主体別実施概要

No.	実施団体名	実施場所	参加延べ人数
	実施内容	活動状況写真	
5	山平の森を育てる会	富山市今生津 地内	116名
	<p>①スギ林、竹林など荒廃森林の整備 ②花木などの植栽と下草刈り ③林内道路整備</p> <p>荒廃の進んだ旧 山平集落の森林を整備し、下層にはシャクナゲなどの花木や山野草を植栽した。 侵入竹の整理、スギ林の間伐など計画通りに整備を行うことができた。 荒廃森林はまだ多く、さらに活動を継続して美しい里山を再生していきたい。</p>	 	<p style="text-align: center;">竹林の伐採</p> <p style="text-align: center;">植栽木の冬囲い</p>
6	(財)オイスカ富山県支部	富山市船倉 地内	90名
	<p>①植樹活動、昨年植栽した箇所の下刈り ②植栽木の活着率調査とネイチャーゲーム</p> <p>コナラ、ヤマザクラなどを荒廃地に植栽するとともに、昨年度の植栽地の下草刈りを実施し、その活着率の調査も行った。 参加したボーイスカウトなどの青少年に対し、活動を通して森づくりや自然に対する意識の高揚に資することができた。</p>	 	<p style="text-align: center;">広葉樹の植栽</p> <p style="text-align: center;">ネイチャーゲーム</p>
7	十三中学校育友会	氷見市飯久保 地内	374名
	<p>①広葉樹林の除伐や竹林の伐採活動 ②キノコの植菌と栽培 ③自然観察会の開催 ④講演会の開催</p> <p>生徒と保護者、教職員がともに、四季を通じて地域の森を整備し、自然に触れることで地域や森を愛する心を育む活動ができた。</p>	 	<p style="text-align: center;">広葉樹林の整備</p> <p style="text-align: center;">自然観察会</p>
8	樵舎	南砺市利賀村上百瀬外 地内	47名
	<p>①上百瀬地区の巨木調査、植生調査 ②植生調査技術講習会、地域住民を対象とした蜂毒講習会の開催 ③巨木のドングリ採取と実生苗作り ④調査報告書やHP作成による利賀の森の情報発信</p> <p>利賀地域の森林を調査し、情報発信をすることで森に寄り添った暮らしの模索と提案を行うことができた。</p>	 	<p style="text-align: center;">巨木調査</p> <p style="text-align: center;">植生調査技術講習会</p>

## H21 県民による森づくり提案事業「県民実践活動事業」実施主体別実施概要

No.	実施団体名	実施場所	参加延べ人数
	実施内容	活動状況写真	
9	湖南小学校PTA	氷見市飯久保 地内	851名
	<p>①下草刈り、竹林の整理などの森林整備 ②伐採した木を活用したベンチ、看板の製作・設置 ③伐採した竹を活用した竹炭や楽器づくり教室の開催</p> <p>郷土の自然を学習の場とし、その中で様々な体験を積むことで、身近な自然のすばらしさを再発見し、郷土を愛し、郷土の自然を大切にすることを育むことができた。</p>	 	<p>植栽木の下刈り</p> <p>案内看板の設置</p>
10	アースデイにいかわ実行委員会	魚津市坪野 地内	285名
	<p>①間伐などの森林整備 ②間伐材を活用した東屋の製作・設置 ③自然体験学習会、森の感謝祭の開催</p> <p>森林の整備を進めながら間伐材を利用して東屋の製作、設置をすることで森づくりの拠点として活用しやすくなった。 また、たくさんの親子連れなどの参加のもと森の感謝祭を開催し、市民へ森を守る意識啓発ができた。</p>	 	<p>間伐材を活用した東屋建設</p> <p>森の感謝祭</p>
11	呉羽丘陵 森の楽校	富山市吉作 地内	103名
	<p>①昨年度竹林伐採した里山の下草刈り等の整備 ②散策路の整備と案内板の設置 ③里山の植物、昆虫などの観察会の開催</p> <p>密生した竹林であったところを繰り返し伐採し、広葉樹を植栽したことで豊かな雑木林に育ってきた。 また、里山の多様な植物や昆虫を知る機会ができ、呉羽丘陵の魅力を発信することができた。</p>	 	<p>竹林の伐採</p> <p>植物、昆虫観察会</p>
12	東山見森林振興会	砺波市庄川町隠尾外 地内	145名
	<p>①広葉樹林の除伐 ②伐採木を利用したキノコの植菌</p> <p>昭和時代のような暮らしに密着した、明るく人が入りやすい里山の再生を目指して活動を行った。 広葉樹の除伐により420本のキノコ用ほだ木を得た。多数の地域住民の参加を得て、植菌を行い、里山と人との関わりや森の恵みなど、子供たちにも啓発することができた。</p>	 	<p>広葉樹林の整備</p> <p>キノコ植菌</p>

## H21 県民による森づくり提案事業「県民実践活動事業」実施主体別実施概要

No.	実施団体名	実施場所	参加延べ人数
	実施内容	活動状況写真	
13	Bamboo saves the earth	富山市婦中町添島外 地内	53名
	<p>①竹林の伐採 ②ビニールハウス活用竹堆肥化実験</p> <p>富山市内の4箇所、約0.5haの竹林を整備した。また、伐採竹をチップ化し、堆肥化しやすい粒度のチップを分別した。分別処理には相当な労力を要した。 ビニールハウスの熱を利用して発酵を促進し、約200kgの堆肥を得た。夏季には頻繁な水分補充が必要であった。 今後遊休ビニールハウスを持つ方に勧め、竹材と遊休ハウスの利用促進に貢献したい。</p>		
		竹林の伐採	竹チップ分別処理
14	きんたろう倶楽部	富山市西金屋外 地内	80名
	<p>①竹林整備とシイタケ廃菌床を活用した竹の堆肥化 ②花づくりを通じた堆肥の検証</p> <p>昨年度の堆肥はチッ素飢餓であったが、シイタケ廃菌床を混合することで安価にチッ素分が多い堆肥ができることがわかった。 さらに、廃菌床に加えて芝草を混ぜたものは廃菌床-竹混合堆肥の約2倍のチッ素含有量があり、高品質であることがわかった。</p>		
		廃菌床と竹の攪拌	竹堆肥を活用した花づくり
15	魚津市舩方地区	魚津市舩方 地内	30名
	<p>①過密になり荒廃した地域の人工林の間伐を実施 ②間伐材を利用したベンチ等の製作・設置</p> <p>荒廃したスギ林約0.6haが明るく美しい森に生まれ変わった。 また、地域の舩方緑地休養施設に新たな憩いの場を創出することができた。</p>		
		間伐材搬出	間伐材を活用したテーブル
16	ビーフレンド山と森の協同組合	南砺市杉尾 地内	54名
	<p>①枯損木伐採や下草刈りなどの森林整備 ②植樹、キノコ植菌などのイベント開催 ③ニホンミツバチ講座の開催</p> <p>カシナガ被害木などの伐採により荒廃した里山を整備した。また、伐採跡地への植栽と伐採木を利用したキノコ植菌を行うイベントを開催し、約40名が参加した。</p>		
		広葉樹の植樹	キノコの植菌



## H21 県民による森づくり提案事業「県民実践活動事業」実施主体別実施概要

No.	実施団体名	実施場所	参加延べ人数
	実施内容	活動状況写真	
17	森と仲間づくり炭竹会	氷見市上田 地内	169名
	<p>①竹林の整備 ②整備に必要な作業路の開設</p> <p>作業道100mを開設し、竹林の整備と竹材の利用に弾みが付いた。 また、竹林約2haを整備するとともに、タケノコ掘りや植樹活動を地区内にある施設(こもれびの里)入居者と地区住民との協働で実施し、交流を図った。</p>		
		作業路の開設	竹林の整備
18	小菅沼・ヤギの杜	魚津市小菅沼 地内	125名
	<p>①竹林と広葉樹林の整備 ②炭焼き窯の製作 ③ボランティアや地元小学生らとの炭焼き体験会の開催</p> <p>地域の繁茂した竹林や手の入っていない広葉樹林を整備するとともに、継続的な森林整備と森林資源の利用を進めるため炭窯を製作した。 炭窯製作、火入れには、地元の小学生なども参加し、森の役割や森林保全の大切さを継承する絶好の機会となった。</p>		
		広葉樹林の整備	炭窯製作体験
19	しんゆう倶楽部	富山市割山 地内	114名
	<p>①間伐材、落葉落枝等の搬出 ②間伐材を活用したベンチ、テーブルの製作設置 ③伐採木を利用したキノコ植菌と炭焼き</p> <p>間伐材や落葉落枝を搬出し林床を整理したことにより新たな山野草が見られるようになった。 また、キノコ植菌や木材加工体験を通じて多くの方に森を手入れする必要性と森の癒し効果を感じてもらうことができた。</p>		
		間伐材の搬出	ベンチの製作
20	NPO森林総合支援センター	砺波市東別所 射水市太閤山 地内	293名
	<p>①ツリークライミング実演と体験会開催 ②ツリークライミング講師による講演会開催</p> <p>ツリークライミングの第一人者 ジョン・ギヤスライト氏を招き、体験会、講演会を通して、森と人を結ぶ架け橋としてツリークライミングという楽しい樹上体験を多くの人に伝えることができた。 また、ロープワークは、伐採、枝打ちなど森づくり作業にも活用できる技術として大きな収穫となった。</p>		
		ジョンさんの講演会	ツリークライミング体験会

## H21 県民による森づくり提案事業「県民実践活動事業」実施主体別実施概要

No.	実施団体名	実施場所	参加延べ人数
	実施内容	活動状況写真	
21	富山県がうん天蚕の会	富山市八尾町檜尾 地内	419名
	<p>①クヌギ林の整備と天蚕飼育 ②ドングリ拾いやエコツアーなど森林環境教育の実施</p> <p>これまで育成してきたクヌギ130本に加え、新たに240本のクヌギを植栽した。また、天蚕飼育技術の確立と伝承、特産化による地域活性化の足がかりとなる活動ができた。 エコツアーではドングリ拾いのほかクラフト教室なども開催し、子供の情操教育にもなった。</p>	 	<p style="text-align: center;">クヌギ林の整備</p> <p style="text-align: center;">ドングリ拾い・エコツアー</p>
22	エコロの森ネイチャークラブ	富山市原 地内	121名
	<p>①森林セラピープログラムの作成 ②森林での癒し体験ツアーの開催</p> <p>森林セラピーの基礎知識のほかノルディックウォーキングやアロマセラピーなど18回にも及ぶ研修会を通じて立山山麓森林セラピー基地に適したプログラムの作成を行った。また、スノーシューコースも設定した。 体験ツアーにより作成したプログラムの検証も行った。</p>	 	<p style="text-align: center;">森林セラピープログラムの制作</p> <p style="text-align: center;">森林セラピー体験ツアー</p>
23	魚津地区林業研究グループ協議会	新川地区全域	223名
	<p>新川地域の小学生を対象に ①森林・林業講座の開催 ②下草刈りや間伐施業の体験活動 ③間伐材を活用した卒業証書額づくり</p> <p>座学、森林内での体験活動、額づくりを通して森づくりの大切さを伝えるとともに、森林・林業に対する学習意欲を喚起することができた。</p>	 	<p style="text-align: center;">間伐施業体験会</p> <p style="text-align: center;">卒業証書額づくり</p>
24	県民で使おう、とやまの木実行委員会	氷見市久目 富山市総曲輪 地内	115名
	<p>①森林整備の実施および伐採木を利用した製品の製作 ②①により製作した作品展示や県産材利用を呼びかけるイベントの開催</p> <p>実行委員会の構成団体がそれぞれの森林内での活動を通じて、森林のすばらしさ、森林の力、森林利用の原点を感じ取り、製品製作に取り組んだ。 グランドプラザでのイベントには2000人以上の来場者があり、多くの方に県産材の魅力を発信できた。</p>	 	<p style="text-align: center;">伐採木を利用した椅子の製作</p> <p style="text-align: center;">「県民で使おう、とやまの木」イベント</p>

## H21 県民による森づくり提案事業「県民実践活動事業」実施主体別実施概要

No.	実施団体名	実施場所	参加延べ人数
	実施内容	活動状況写真	
25	梅谷の郷	氷見市柿谷 地内	187名
	①遊歩道開設、除伐、下草刈り等の里山林整備 ②間伐材を活用したベンチ等製作・設置 ③里山の恵みを楽しむ交流会の開催  通算28回もの活動により四季を通じて魅力を感じられる美しい里山となった。 また、チラシや看板を製作したことにより梅谷の郷の魅力を多くの人に伝えることができた。	 伐採竹の整理	 菖蒲園整備

### H22年度合計

実施団体数	25団体	5,055名
-------	------	--------

### 【参考】

#### 実施団体、参加延べ人数の推移

年度	実施団体数	参加延べ人数
H19	15団体	3,935名
H20	20団体	3,577名
H21	25団体	5,055名



平成21年度 県民からの森づくり事業アイデア提案 一覧

1. 新たな事業の提案

分野	番号	県民からのアイデア提案		対 応	
		事業名	事業概要	事業への反映	理由
森林の整備や利活用	1—①	高齢級人工林の伐採及び伐採跡地の再造林補助	①小規模、分散しており伐採経費がかかり増しになりがちな高齢級人工林（特にX年齢級以上）への伐採経費助成 ②伐採跡地の再造林と下刈り・雪起こし等に対する定額助成	他事業で対応可能	水と緑の森づくり事業については、現行の富山県森づくりプランでは、「生産林」を対象としていないため、提案は採用しない。ただし、造林事業（公共）により一部抜き伐りのものは対応可能であるが、林業振興の観点の中で対応可能か検討していきたい。
	1—②	スギの枯れ枝除去のための枝打ち事業	病虫害の防止を目的として、手遅れとなった枯れ枝を対象に枝打ちを行う	他事業で対応可能	造林事業（公共）で対応可能であり、また、緊急雇用対策としてH21年度より実施している「元気の森再生事業」でも取り組んでいる。
	1—③	植林スギに対する熊はぎの調査及び対策	①熊はぎ被害の実態調査（他県の対策状況とその効果の調査も含む） ②テープを巻くなどの保護対策の実施	他事業で対応可能	①H6年に立山町で初めて確認された熊はぎ被害は、毎年調査しており、昨年は立山町、富山市、上市町で1.2haの被害があり、近県とは対策等の情報交換も行っている。 ②熊はぎ防止対策は、造林事業（公共）で対応可能である。
県民意識の醸成	1—④	CO2吸収源調査	県民参加による現地の植生調査および航空写真による植生調査を実施し、市町村別吸収量を算出	採用（一部）	CO2吸収量（蓄積量）については、森林資源情報（県森林簿データ）により推定することが可能ある。 なお、現在実施している「森の寺子屋」の題材として、身近な森林のCO2吸収量の調査体験などにも取り組むこととしている。
	1—⑤	林業政策（水と緑の森づくり）の広報事業	①「とやまの森づくりメールマガジン」の発行 ②森林関係記事への「沈黙の森」マーク等の継続使用の要請	採用（一部）	①水と緑の森づくりやとやまの森については、「とやまの森づくりホームページ」や県の広報媒体等を活用してこれまでも積極的に広報活動を行ってきた。今後、更に森づくりに対する県民の理解と参加をさらに進めるため、新たに「県民参加の森づくりフェア」を開催するとともに、ローソンにおけるパンフレット掲示など新たな媒体も活用した事業の広報に取り組むこととしている。 ②提案があったことについてお伝えした。
森林資源の利活用	1—⑥	カシノナガキクイムシ被害木の有効利用	カシノナガキクイムシの被害木の活用方法として木製パレットに加工・利用	対応済	カシノナガキクイムシの被害木については児童・学童用机の天板として既に利用している。 また現在県の木材研究所において被害木を利用した家具を試作するなど、より付加価値の高い製品への利用について研究している。
	1—⑦	氷見シーサイドデッキの設置	①「道の駅ひみ」そばの公園に県産材を使用したウッドデッキを敷設 ②県産材活用の有効性・必要性をPRする看板等の設置（県産材の活用促進と、海・街など森林や木が身近でない人への県産材の普及啓発）	対応済	①漁港環境整備事業の中で、耐久性やメンテナンス上の理由から、木材・プラスチック複合材によるウッドデッキが、H20年度までに272㎡設置されている（H21年度は96㎡設置予定）。 ②県産材利用のPRについては、これまでも県産材ベンチの設置や、「こどもの城」のデザイン募集・製作などの形でPRに努めている。

平成21年度 県民からの森づくり事業アイデア提案 一覧

2. 既存の事業を改正する提案

分野	番号	県民からのアイデア提案		対 応	
		事業名	事業概要	事業への反映	理由
森づくりサポートセンターの運営	2—①	富山森づくり協力隊の新設	既存の森林ボランティアよりレベルアップした、作業能率を目的とした「仮称 富山森づくり協力隊」の新設	対応済	サポートセンターでは、県民参加の森づくり活動を幅広く支援している。森林ボランティアの技術面では安全で継続的に実施できる作業方法を指導しており、さらなるレベルアップに関しては、森づくり塾を開催し支援している。 なお、H13年から16年までにサポーター養成研修を受けたサポーターの会員130人が現在活躍しており、よりレベルアップした新たな団体の設立相談についても、サポートセンターにさせていただくとともに、県民の提案する「実践活動事業」に応募していただくことも可能である。
	2—②	上下流連携ボランティア交流	上下流連携ボランティア交流として実施されている飛越源流の森づくりについて、 ①土壌養分が少ないことから固形緩効性肥料の施肥 ②植樹した樹木の下刈りの実施	別途対応	飛越源流の森づくりの実施主体である「NPO法人どんぐりの会（高山市）」に対し、ご提案の内容についてお伝えしたい。
	2—③	とやまの森づくりサポートセンター支所の開設	①とやまの森づくりサポートセンターの支所を新川地区（県東部）、砺波地区（県西部）に1箇所ずつ設置 ②フォレストリーダー等に運営を委嘱	対応済	サポートセンターでは、3名の職員体制で森林ボランティアからの幅広いニーズに応じてきており、貸し出し機材のメンテナンス上の問題や、人員の面から、これまでどおり一元的に団体運営の相談・指導等の支援を行うこととしたい。 また、サポートセンターの活動を補助するため、県下4農林振興センターにも担当者を配置し、森林ボランティアや企業の森づくりの支援の窓口として、サポートセンターと連携して対応している。
その他	2—④	水と緑の少年団活動	既存の「花とみどりの少年団」と「水の少年団」を発展的に解消し、森林・川・海などの自然と水の大循環への理解を深める「水と緑の少年団」を設立する。	不採用	花とみどりの少年団は、自然（緑）に親しみ、守り育てる活動を通じて、心豊かな人間性を養うことを目的として、県内全市町村に各市町村単位又は学校単位で任意に結成されている。一方、水の少年団は、貴重な資源としての「水」を認識させることを目的として、県内に1団体（黒部市内）任意に結成されている。 それぞれの設立目的が異なることから統廃合することは困難と考えられる。

3. その他水と緑の森づくり全般に対するご意見

分野	番号	要 旨	対 応
水と緑の森づくり税	3—①	①「水と緑の森づくり税」を財源とした事業が県内で開始され、成果も現れてきている。残すところあと2年間となっていることから、平成24年度以降も活動を継続するためには新たな財源が必要となる。引き続き「水と緑の森づくり税」を実施するのか、新たな税を実施するのか、平成22年度中に方針を提案して欲しい。 ②森林だけでなく、農地、河川、海も含めた富山県の自然を守るための税にしてはどうか。	「水と緑の森づくり税」は、富山県森づくり条例に基づき導入しており、この条例に基づき策定した富山県森づくりプラン（計画期間平成19～28年）の前半5年間の事業推進のために活用することとしている。 5年経過時に税の導入効果、社会情勢等により見直すこととしていることから、平成22年度から23年度にかけて、県民や水と緑の森づくり会議等のご意見を伺いながら、富山県森づくりプランの後期計画（平成24年度以降の計画）を検討することとしている。そのため、今年度はその基礎資料とするための「森づくり県民意識調査」を実施することとしている。